

PICTORIAL SOURCES ON THE AMERICAN CIVIL WAR

図像で見る アメリカ南北戦争



アメリカの歴史を決定づけたと言って過言ではない南北戦争の図版報道資料を復刻！

Part 1: Battles and Leaders of the Civil War: People's Pictorial Edition

ISBN 978-4-86340-321-5 • A4横判 • 324 pp., ill.

• 定価 本体38,000円+税 ▶2021年11月

Part 2: Frank Leslie's Illustrated Famous Leaders and Battle Scenes of the Civil War

ISBN 978-4-86340-322-2 • A3判 • 544 pp., ill.

• 定価 本体68,000円+税 ▶2021年11月

Part 3: The Confederate Soldier in the Civil War, 1861–1865

ISBN 978-4-86340-323-9 • A3判 • 482 pp., incl. 2 col., ill.

• 定価 本体68,000円+税 ▶2021年11月

Part 4: Campfire and Battlefield

ISBN 978-4-86340-324-6 • A4判 • 554 pp., ill.

• 定価 本体47,000円+税 ▶2022年11月

Part 5: A History of the Civil War, 1861–1865

ISBN 978-4-86340-325-3 • A4判 • 544 pp., incl. 16 col., ill. • 定価 本体47,000円+税 ▶2022年11月

Athena Press

構成

Part 1

Battles and Leaders of the Civil War: People's Pictorial Edition (1894)

ISBN 978-4-86340-321-5 • A4横判 • 324 pp., ill. • 定価 本体38,000円+税 ▶ 2021年11月



南北戦争を遂行した人々の手記によって戦争の全容が示された本のなかで定番とされるのが *Battles and Leaders of the Civil War* である。存命の北軍、南軍双方の主要な司令官の大半が寄稿したもので、Century 社から 1887 年から 88 年にかけて刊行、全 4 巻で約 3200 ページ、著者総勢 226 人で 400 稿近くからなる刊行物であった。もともとは“Century War Series”として知られるようになる、1884 年 11 月から 3 年続いた *Century Magazine* の連載で、二人の編集者が担当していた。連載開始初年度は雑誌の発行部数も倍近くに伸びるなどこの企画は好評で、内容を追加して書籍化された全 4 巻セットの販売部数も 1890 年代半ばには 7 万 5 千部に及び、今なお歴史資料としての重要性を保っている。この 4 巻本をもとにしてさらに、図版を増補しつつより一般読者向けに簡約に再編集したものが 1894 年 3 月 26 日から同年 8 月 6 日にかけて分冊刊行された。それを全 1 巻に製本したのが“People's Pictorial Edition”。

3 種類のいずれの版においてもその都度注意深く編集が行われ、図版類の選定も熟慮されて、地図、写真のほか、戦場に赴いた画家の描いた当時の戦争画はもとより、新たな技術で制作されなおした精細な画質のものも加えられるなど多様な図版が含まれている。

Part 2

Louis Shepherd Moat, ed. *Frank Leslie's Illustrated Famous Leaders and Battle Scenes of the Civil War* (1896)

ISBN 978-4-86340-322-2 • A3判 • 544 pp., ill. • 定価 本体68,000円+税 ▶ 2021年11月

ニューヨークにある Leslie 社は 1890 年代に、南北戦争の期間中に *Frank Leslie's Illustrated Newspaper* (FL) に掲載されたものをもとに何度も再編集してそれぞれ別の書籍として刊行していた。本書はこれらの中で最も分量の多いものである。900 点近くの大判版画は南北戦争の推移や各地での戦闘、両陣営の将校や政治家についてなど、様々な事柄を今もありありと伝える。

FL は多くの図版を用いた誌面が特徴で、競合誌より多くの特別な画家を雇い入れており、Arthur Lumley、Henri Lovie、Edwin Forbes、William Waud、James E. Taylor、Frank H. Schell、Fred. B. Schell、そして後に FL の図像部門を率いることになる Joseph Becker などが所属、他社より数多くの絵を制作していた。戦争終結の数か月前には、80 名を超える画家の 3000 点以上の絵を出してきた、というコメントを出して自負を示した。ただ上記のような“specials”と称えられた画家の作品は実際にはこの半分以下と見られている。

Part 3

Ben La Bree, ed. *The Confederate Soldier in the Civil War, 1861–1865* (1895; 1897 ed.)

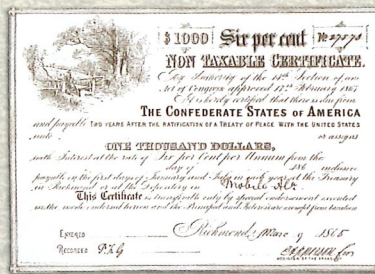
ISBN 978-4-86340-323-9 • A3判 • 482 pp., incl. 2 col., ill. • 定価 本体68,000円+税 ▶ 2021年11月

南北戦争に関する初期の著作で評価の高いものはほとんどが勝利した北の視点で書かれているので、南からの視点を反映したあまり知られていないものを加えることとした。戦時中の南部では、北部のような上質な絵入り雑誌は物資の不足もあって刊行されていなかった。紙やインクはもともと北の工場から供給されていたし、ヨーロッパからの輸入も海上封鎖によって断たれていた。それに版画制作の熟練者が少なかったこともある。

本書は連合国側の資料を様々寄せ集めた内容で、南軍司令官たちが記した、「一連の軍事活動、各地での戦い、攻囲戦、突撃戦、小規模な衝突、など」についての記録を時間軸に沿って構成したものが主になっている。加えて「連合国の創設と構成の全史」、連合国陸軍と海軍の組織と活動についての記述、南軍戦没者を顕彰するモニュメントや連合国で用いられた紙幣の写真、「連合国の詩」なども収録され、文章と図版の両方についての索引も付されている。

本書は *Confederate War Journal* 編集者の Benjamin La Bree による編集で 1895 年にケンタッキー州ルイビルの Courier-Journal Job Printing Company から出された。1897 年に同社から、設立者 George Prentice にちなんだ Prentice Press の名義で内容の変更なく再版された。





Part 4

Rossiter Johnson Campfire and Battlefield (1894; 1896 ed)

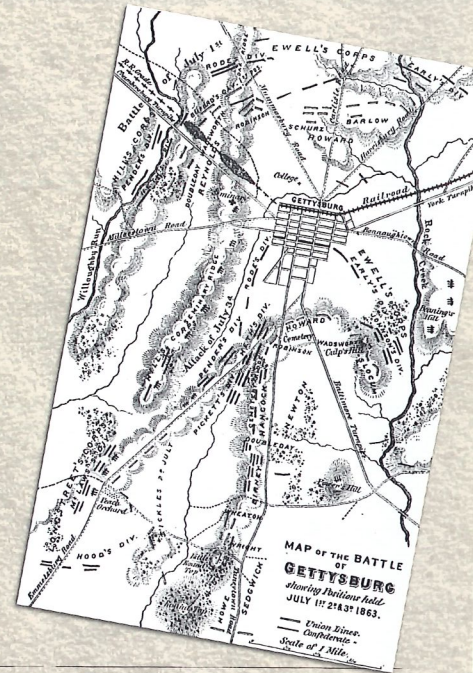
ISBN 978-4-86340-324-6 • A4判 • 554 pp., ill. • 定価 本体47,000円+税 ▶ 2022年11月

著者 Rossiter Johnson は 19 世紀後半の定評ある参考図書を多く編纂した経験豊かなライター、編集者である。戦争当時の司令官たちによる記述が数多く掲載され、用いられたおよそ一千点の図版はそのほとんどがブレイディ・コレクションの写真で、さらに地図、版画、線画、有名な戦闘の場面の絵画の複製も含まれる。図版編集は George Spiel



と戦争中に戦争画特派員であった Frank Field。

また、戦争歌、徴兵反乱、南部の戦争を題材にしたユーモア、遠征生活、諜報活動や偵察、捕虜収容所と脱走、襲撃、女性の貢献などのトピックを提供し、さらに文と図版の両方に対する詳細な索引などがあって、本書の特徴となっている。初版は 1894 年、本復刻は予約出版された 1896 年版を底本とした。



Part 5

Benson J. Lossing A History of the Civil War, 1861-1865 (1912)

ISBN 978-4-86340-325-3 • A4判 • 544 pp., incl. 16 col. pl., ill. • 定価 本体47,000円+税 ▶ 2022年11月

Benson John Lossing はアメリカの歴史を一般向けに多く書いた人物。立志伝中の人で、若いころは新聞に記事を寄せ、版画制作も学んでいた。大衆紙で培った版画と文章を組み合わせる能力は将来の成功のカギとなる。アメリカ中を広く歩き回って実際の状況を確認め、生存者の証言を集めて書いたアメリカ独立戦争の本 *Pictorial Field-Book of the Revolution* (1850-52) で名声を得た。わかりやすい言い回しで、絵と現地調査を組み合わせたこのやり方を自ら “topographical history” と呼び、場所と歴史的イベントを結び付けて解説し、この新しい国の歴史への愛着を染み渡らせようとした。

南北戦争についても同様の手法で、戦争終結間近の、また終戦直後の戦いの余波が残る様々な場面や戦場を見て回ってまとめ上げ、1866 年から 68 年にかけて 3 巻で刊行した。以前に出版されたものを含め自身のスケッチを元にした小型の図版が使われている。軍内部の資料類の利用や、従軍者や一般市民への聞き取りを北側に限らず南側からも行うなど、かなり際どい作業も許可されていたことは特筆すべき点である。また彼は典型的な強い北部支持者であった。

本復刻の底本としたのは、1912 年に “Great National Struggle” の 50 周年を記念して War Memorial Association から出版された大衆向けの縮約記念版。ブレイディ・コレクションから選ばれた 1 千点以上の写真と、Henry A. Ogden ほか歴史や軍事関係を専門とする画家の彩色加工された絵画などが加えられて 16 分冊で刊行された。



南北戦争は、アメリカにおける19世紀最大の出来事で、その後現代にいたるまで広範に多大な影響を及ぼしている、アメリカの歴史を決定づけた重大事象でした。そしてその経緯を仔細に記録された戦争でもありました。

戦争中、北部側からは様々な新聞社からのべ300人ともいわれる特派員が連邦軍(＝北軍)に従軍しましたが、その多くは若く高学歴でした。南部側ではそうした報道に関わった人数はのべ100人を超える程の規模で、職業記者以外に将校や兵士など文筆を専門としない人々が多数いました。彼らが戦場で記録した事柄は全米の様々な新聞や雑誌に掲載されましたが、ヴィジュアルなイメージを提供したのは直近に創刊され人気を博した大衆絵入り雑誌、特に *Frank Leslie's Illustrated Newspaper* (1855年創刊) と *Harper's Weekly* (1857年創刊) でした。

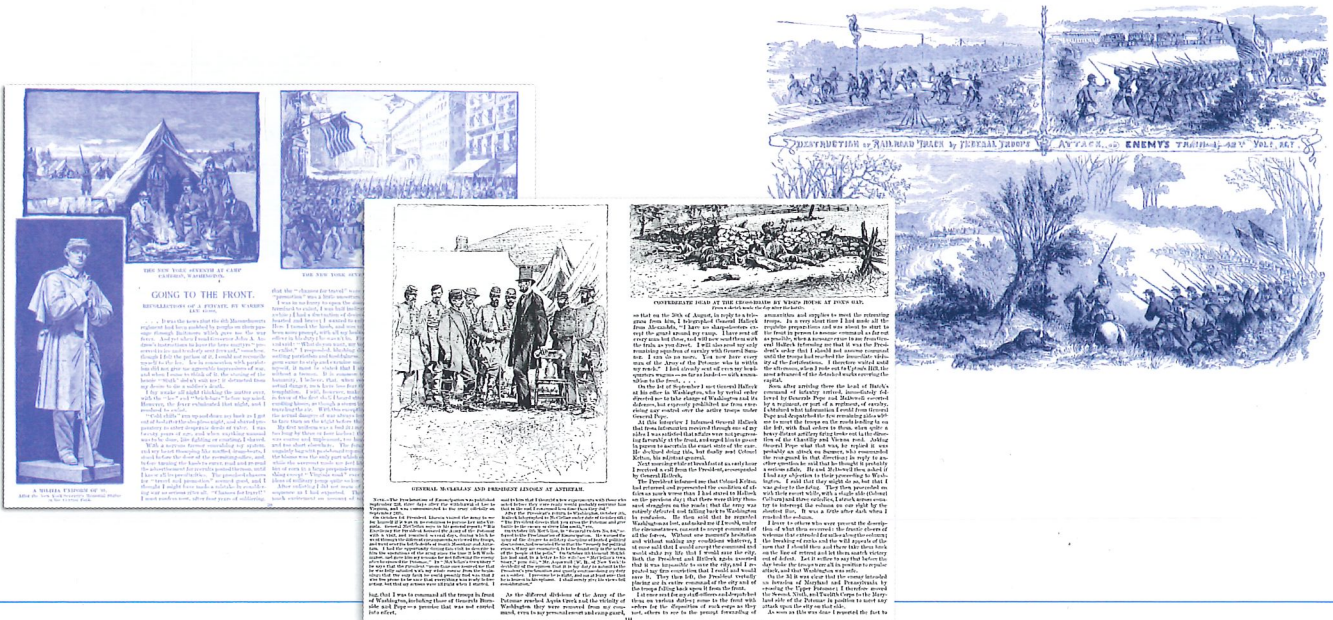
Frank Leslie's Illustrated Newspaper は開戦当時、熟練の画家と版画家を最も多く抱えており、絵入りのジャーナリズムの中では当初群を抜いた存在でした。そのスタイルは、より落ち着いた画調の *Harper's Weekly* よりも興味本位の性格のものといえます。また最初は南部の読者が離れてしまわないよう中立の立場を保って南北両方からの記事も掲載しましたが、サムター要塞砲撃の後には強力に北軍支持にまわりました。

これら絵入り雑誌には「specials」とも呼ばれた特別な画家たちが所属しており、戦場において、戦闘の現場から離れた見通しの利く場所あるいは馬上などで仕事に当たりました。現場をスケッチし、余白にメモを書き込んで、それをニューヨークの本社にいる版画家が仕上げます。戦場でのスケッチが刷り物になるまで通常3、4週かかっており、技術の高い版画家の腕が最終的な印刷上の絵の質に極めて重要でした。

また南北戦争は、アメリカで初めて写真によって全体的な記録が残された戦争でもあり、国立公文書館と議会図書館に所蔵されているブレイディ・コレクションによって詳しく知ることができます。マシュー・ブレイディはニューヨークとワシントンで写真館を構えて成功した人物で、戦争に際して複数の撮影隊を送り込みました。その撮影隊にはアレクサンダー・ガードナーやティモシー・オサリバンのように才能を開花させて有名になった者もいました。軍人や兵士の肖像写真、野営の情景、戦闘直後の様子や自然の風景など、多岐にわたって数多くの写真が残されています。

一方、この頃の写真はまだ長い露光時間が必要であったために戦闘の様子など動的なシーンの撮影は不可能でした。戦闘の実際の様子を視覚情報として多くの人々に伝えることができたのは戦争画家のスケッチからできた版画でした。当時の絵入り雑誌の出版社には数千(ある研究によれば6千枚)もの版画があったとされます。兵士たちの衝撃的な戦闘シーンを表現する力を持っていた絵入り雑誌は、戦場から遠く離れた場所で戦争の情報を求めていた何百万人もの読者たちにむさぼり読まれたのです。情報伝達のインパクトの点で、当時の版画は写真をはるかに超えるメディアだったのです。

本復刻は南北戦争のイメージ構築に役立つ資料を複眼的に集めました。19世紀アメリカの歴史、歴史理論、印刷メディア、視覚文化の研究にとって重要な資料です。



【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



【取扱書店】

〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp